

第 25 回 国際核融合エネルギー機構（ITER 機構）の職員募集説明会議事メモ

1. 日時 平成 21 年 4 月 7 日（火）18 : 30 ~ 19:45
2. 場所 TKP 虎ノ門ビジネスセンター カンファレンスルーム 1C
3. ゲスト 及川 聡洋氏（4 月より ITER 機構核融合科学・工学部 専門職員）
4. ファシリテーター 杉本 誠 原子力機構 ITER 協力調整グループリーダー
5. 参加者 5 名
6. 内容

現在、ITER 機構において Visiting Researcher として作業されており、今回、面接試験を受けて ITER 機構の職員として 4 月から採用されることになった及川氏をゲストとして迎え、ファシリテーターが質問を発し、ゲストがそれに答えるという対談形式で進めた。概要は以下のとおり。

Q: これまでの研究経歴の概略と ITER とのかかわりを教えてください。

A: 博士課程卒業後、日本原子力研究所（現 日本原子力研究開発機構：JAEA）那珂研究所に勤務し、JT-60 においてプラズマ物理、特に電流駆動によるトカマク定常化に関する研究を行ってきました。2006 年からフランス カダラッシュにある ITER 機構で Visiting Researcher として働いています。

Q: ITER 機構の仕事、職場環境などを教えてください。

A: 現在の部署（核融合科学・工学部）は、職員 18 名、ポスドク 2 名が所属しています。出身は欧、露、日、米などそれぞれの参加極から 4~5 名ずつです。

仕事をする上で、欧米人は自分の意見をどんどん主張して自身を売り込む傾向があり、コミュニケーション能力が重要になります。しかし、世界中どこでも同じですが、誠実に成果、事実を積み上げ、着実に仕事を進められるスキルが重要です。

勤務時間は週 40 時間で、土日を含めた休日の数は、日本と大体同じです。有給休暇は一カ月働く毎に 2 日付与され、1 年で 24 日になります。通勤は、エクサンプロバンスから自家用車でしています。カダラッシュサイトと主な町間の通勤バスも充実しており、時間が合うならば通勤バスを使って通勤することも可能です。

Q: フランスへの渡航手続き、住まい、生活に関して教えてください

A: フランスの渡航手続きは、ITER フランスから Invitation Letter を発行してもらい、それを持って在日フランス大使館でビザを発給してもらいました。レター発行に約 1 ヶ月、ビザ発給に通常 2 週間程度かかります。現地到着後、3

か月のビザ有効期間中に滞在許可証 (Carte de sejour) を申請する手順です。

住まいは、エクサンプロバンスの La Rotonde (市の中心部にある大噴水) から徒歩数分のアパートです。広さは 10m² 程度のテラス込みで 70m² 位、家具なしで 1200 ユーロ/月です。ロトンドから少し離れると家具付きで 900 ユーロ/月程度の物件などもあるようです。

最初の 6 ヶ月はレンタカーを使用していましたが、車を手放す人から中古車を手にいれました。ITER 機構の職員は約 20% の付加価値税 (VAT) が免税のため、新車を購入する人も多いです。

食事に関しては、日本から海外対応の炊飯器を持参して、主に自炊しています。現地でカリフォルニア米などのお米を買うことができます。

Q: ITER 機構の採用試験について教えてください

A: 提出書類、面接などすべて英語で行われます。応募ポストに “いかに適合する” のか、自分を採用することが “いかにメリットとなるか” をアピールすることが重要です。これまでの経験や資格など客観的な事実を積み上げて何度もアピールすることが大切です。

ITER 機構では、面接時の対応が上手なだけの人ではなく、実際に即戦力となる人を求めています。このため、自分の持っている能力を誠実にアピールしていくことが重要です。

カダラッシュに VR として勤務していますが、面接は他の応募者と条件をそろえるため、テレビ会議システムを用いて行いました。原子力機構で提供している模擬面接ビデオは、面接の雰囲気、音声の聞こえ方など非常によくできていました。また、ビデオに収録されている質問は、まったく同じ質問がなされるわけではないですが、傾向がよく出ていると思います。一度ご覧になれることをお勧めします。

QA は、事前に予想できないため難しく感じると思います。事前に自身の過去の実績、アピールしておきたい点をまとめ、それを覚えて面接に臨みました。また、面接官には色々な国の人がありますから、質問が聞き取りにくいこともあります。そのような場合は落ち着いて聞き返すなどの対応ができるとよいでしょう。

Q: 最後に、ご自身の抱負とこれから ITER 機構を目指す人へメッセージをどうぞ。

A: 私自身は、ITER をプラズマ物理研究の視点からよりフレキシブルな実験が出来るような装置にするよう貢献したいです。また、ITER における研究開発が日本の核融合炉開発計画にうまくつながるように橋渡しをしたいと考えています。

立ち上がって間もない国際プロジェクトなので、これからも様々なことが起こると予想され、それらをいかにして乗り越えていくかが大切な経験になると考えています。日本からも、私のようなプラズマ物理の研究者のみならず、エンジニア、事務系の方々など積極的に参加していただきたいと思います。そして、日本が研究開発、大型プロジェクトの組織作りとマネジメント等、包括的に ITER プロジェクトに貢献出来ればと思います。

7. 参加者との質疑応答

Q: 原子力、技術的な知識が全くありませんが、応募可能でしょうか？

A: 人事、経理、法律などの専門的な知識や、異なる国々とのプロジェクトにどのように関わったかなどの経験も重要視されると思います。原子力に関する知識があれば“売り”にはなりますが、必須ではないと思います。

Q: 5年間の任期が終了した場合、更新についての基準は？

A: 実際にプロジェクトが始まって、5年経過していないのでどのような基準で更新されるのかはまだ決まっていないようです。

Q: 専門職員（P グレード）と支援職員（G グレード）の違いは何か？

A: 私の部署（核融合科学・工学部）では、P グレードは博士号を取得した研究者、G グレードは計算コードの技術者などの違いがあると思います。しかし、部署ごとに状況は様々なようです。

Q: 人員募集は現在がピークか？

A: 想定している予算上の定員は 600 人程度であり、まだしばらく募集があると思われる。しかし、今回の募集のように 80 人規模の募集は、めったにないことだと思います。

Q: 定年は何歳か？給与テーブルは公表されているのか？

A: 定年は明記されていませんが、65 歳程度が目安であると思います。給与テーブルは公表されていません。

Q: 渡航の費用などは支給されるのか？現地における住居探しなどへのサポートは？

A: 2 か月分の給与相当額が赴任手当として支給されます。その他に転居費用、移動のための飛行機代なども支給されます。滞在許可証に関する手続き、住居探しなどに関しては、ITER 機構の隣にあるウェルカムオフィスがサポートしてく

れます。

Q: 自身の経歴に、ぴったり合うポジションが少ない。どのポジションに応募したらよいのか？

A: 自身の経歴に照らし合わせて、関連するポジション、可能性のありそうなポジションに積極的に応募したらよいと思います。

Q: 複数のポストについて書類審査にパスした場合、面接はポスト毎に受けるのか？

A: これまでの面接では、同じ部門のポストであれば、面接は1回で済みます。異なる部門のポストであれば、ポスト毎に面接を受けることになります。



写真 TKP虎ノ門ビジネスセンターで開催されたITER機構職員募集説明会の様子